

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2670700471
法人名	医療法人三幸会
事業所名	ケアサポートセンターけいほく(認知症対応型共同生活介護)
所在地 (電話番号)	〒601-0321 京都市右京区京北塔町中筋浦44-1 (電話) 0771-53-8181

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	2009年9月30日	評価確定日	2009年11月7日

【情報提供票より】(平成21年9月14日記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 2人, 兼務 4人, 非常勤 9人, 常勤換算 5.7	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	610 円
	夕食	610 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1680円	

(4) 利用者の概要(8月17日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.7歳	最低	79歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	京都市立京北病院、安井歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は京都市北部で精神科医療に取り組む病院で、高齢社会貢献の重要性の意識をもち、老健や療養型を運営し、ここ1,2年の間に積極的に地域密着型サービスに進出している。その中でこの事業所は法人初のグループホームで、京都市内中心からは1時間半余り、北山杉産地の京北唯一のグループホームで、開設から5年を迎えた。特産物の杉材を利用した表札や柱等が産地らしさを表わし、山や田畑の自然に囲まれたのんびりとした風景と豊かな自然の中に溶け込んだ建物となっている。ご近所からの差し入れがあり、散歩やドライブ、普段から家族の訪問も多く、年3度ほどは家族交流会を行い、季節のいい頃は出かけたり大掃除を兼ねた忘年会も継続され、地域ボランティアの大正琴やコーラス訪問も継続されている。地元採用の職員が定着し、センター方式に取り組み、より利用者一人ひとりのことを鑑みた個別ケアに意欲的である。今年度は利用者の要介護の重度化、管理者の異動とグループホーム初のターミナルケアへの取り組みが重なり、認知症ケアにも意欲的で、今後はより地域への啓発等含めた地域発信の拠点となるべく運営推進会議等でアイデアを話し合っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が5度目の外部評価受審となる。グループホーム独自の理念をまとめ新たな重要事項説明書等には挟み込むようにした。グループホーム内にも毛筆で書かれた理念をリビングに掲示している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	家族の要望もあり「重度化対応・終末期ケア対応指針」を明文化し、法人の研修などの応援を得てターミナルケアに模索しながら取り組んでいる。法人の地域密着型事業所の見学研修も開催され、昨年度の評価を活用し改善されている。今回の外部評価受審にあたってはその意義を全職員で共有し、職員からも意見を吸い上げ作成された。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回定期開催され、京北地域包括支援センター職員、民生児童委員、利用者家族、オブザーバー参加として京北出張所福祉担当課長が会議に参加している。詳細なサービスの利用状況や事故報告等がなされ、地域行事への参加や報告とともに、ターミナルケアに対する家族の思いや職員体制について意見や話し合いがなされている。会議録は欠席者にも配布され報告がきちんとなされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会は多く、毎日来られる方から3ヶ月に1度は訪問がありその機会を捉えて利用者の様子等を報告することはもちろん、電話でも随時行っている。家族交流会も年3回ほどあり、事業所での食事会や職員との交流を行ったり、大掃除と忘年会を兼ねた交流をしている。また、広報誌がリニューアルされ写真のあふれる広報誌により報告している。ターミナルケアの利用者には「心からのメッセージ」ノートが準備され関わる人たちが記入できるようにし、個別報告にアイデアが発揮されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	塔地域の溝掃除や草刈りに参加、山国祭などに職員と一緒に利用者も参加や見学している。外に出て行く利用者がある時や洗濯物の取り込みをしてはなど近所から声をかけてもらえる関係である。園児が遊戯を披露にきたり、小中学生の体験学習受け入れ、大正琴や踊り、コーラス等のボランティアの訪問も継続されている。豊和園(特養)の夏祭に職員と利用者共に参加し楽しく過ごしてきた。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	約3年前、法人の理念を踏まえたグループホームの理念を職員全員で作りに上げている。その理念は、①ゆっくり楽しくよりそって暮らせる家を目指します。②自分でやれる喜びと達成感のある暮らしを目指します。③ご利用者様、ご家族様、地域の人々、私達スタッフの幸せを目指します。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	上記の理念を基に、管理者は「利用者本位のサービスとは何か」を考え業務に邁進している。また、理念はリビングに掲示され、申し送りやカンファレンスの際など折々に振り返られるようになっている。パンフレットに法人理念は掲載しているが、独自理念の広報誌への掲示はこれからである。	○	ケアサポートセンターけいほくの理念を今後も地域へ周知し、浸透・理解をはかることが求められる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	塔地域の溝掃除や草刈りに参加、山国祭などに職員と一緒に利用者も参加や見学している。外に出て行く利用者がいる時や洗濯物の取り込みをしては、など近所から声をかけてもらえる関係である。園児が遊戯を披露にきたり、小中学生の体験学習受け入れ、大正琴や踊り、コーラス等のボランティアの訪問も継続され地域住民との交流に力をいれている。豊和園(特養)の夏祭に職員と利用者共に参加し楽しく過ごしてきた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族の要望もあり「重度化対応・終末期ケア対応指針」を明文化し、法人の研修などの応援を得てターミナルケアに模索しながら取り組んでいる。法人の地域密着型事業所の見学研修も開催され、昨年度の評価を活用し改善されている。今回の外部評価受審にあたってはその意義を全職員で共有し、職員からも意見を吸い上げ作成された。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催され議事録が残され欠席者にも報告されている。メンバーは、利用者と利用者家族、京北地域包括支援センター職員、民生児童委員に加えて京北出張所職員がオブザーバー参加がなかった。利用状況、行事報告や案内の運営内容の報告のほか、職員待遇やターミナルケアについて利用者家族の思いや実践報告などからこのグループホームをささえようという姿勢がみられる。		

ケアサポートセンターけいほく

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今年度上半期は介護相談員にきてもらい、社会福祉協議会の紹介で音楽療法の人を紹介してもらい、実施することができた。町との連携においては、共同で地域での認知症相談開催など考慮すべき余地がある。	○	春先の新型インフルエンザ騒ぎやターミナルケアへの取り組みにより、サロン活用が軌道に乗るところまでいっていないが、介護相談や認知症啓発活動等の地域貢献に積極的に応じる姿勢があり、運営推進会議への出席の関係から、今後とも町へは積極的な働きかけを継続されることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は多く、毎日来られる方から3ヶ月に1度は訪問がありその機会を捉えて利用者の様子等を報告することはもちろん、電話でも随時行っている。家族交流会も年3回ほどあり、事業所での食事会や職員との交流を行ったり、大掃除と忘年会を兼ねた交流をしている。また、広報誌がリニューアルされ写真のあふれる広報誌により報告している。ターミナルケアの利用者には「心からのメッセージ」ノートが準備され関わる人たちが記入できるようにし、個別報告にアイデアが発揮されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や意見箱の設置はあるがその中に意見等が出されることはないことを見越し、「苦情ノート」を作り、対応した職員が記入し対応方法が記入され職員に周知できるようになっている。また「絆ノート」があり家族や見学者も含めて気軽に記入できるノートを作っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度管理者が法人内異動しケアマネージャーとして週1回の訪問となった。管理者は職員から普段より話を聞きストレス緩和に努め、管理者は前管理者のフォローを得て利用者や職員の不安軽減をはかっている。職員は20～60才代と幅広いが、職員同士の交流もあり、地元京北採用を心がけ、定着している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人から中堅職員へと段階を負った研修計画と共に、ターミナルケアに対する研修が栄養士や看護師が講師になって開催された。勤務をやりくりして研修の希望が聞き入れられ外部研修にも参加している。外部研修に参加した場合は、全体カンファレンスを利用して伝達研修を行ってまなびの機会を持っている。資格取得のための通信教育などへの金銭的バックアップもあり、職員の励みになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京北地域の特養「豊和園」とは職員と利用者が参加し交流が生まれ勉強になった。またグループホーム協議会研修への参加や同法人の地域密着型事業所への見学にも派遣した。職員自ら提供するサービスをふり返る機会が、新たなよい刺激となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の見学には気軽に応じている。時間をかけて事業所の雰囲気や様子を知ってもらうように、職員や他の利用者と一緒に過ごしてもらうようにしている。最近では病院からグループホーム入所となったケースの利用者は担当ケアマネージャーとの連携を密にし迎え入れることのできた利用者もいる。入所すぐにおだやかに利用者皆でリビングで過ごされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者は利用者本意のサービス提供を念頭に置き、利用者の興味・関心のあることや生活暦の中、たとえば戦時中の苦労話を聞いて大変な人生を送ってきた人たちに安心して生活してほしいと考えている。また利用者同士の関係を見つづ時にいいあいがあったときにはなだめたりと、職員利用者ともに支えあい穏やかに生活してほしいと考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式の書式を利用して初回申込時、アセスメントから入居後も含め、全員で気づいた情報を書き込むことにしている。所定の書式のほぼ全ての項目にわたって情報が詳細に書き込まれている。また今年入職の新人でイラストの得意な職員が利用者の表情を捉えたイラストを描いて、一助となっている。	○	職業歴及び生活歴を入居後でも良いので継続的にもう少し詳しく捉えるようにして、情報を充実させることが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員が単独で東京センター方式で得られた入居者の情報及び本人、家族の意向をもとに介護計画を作成している。介護計画は、計画のみならず介護方法の仔細まで網羅されていて、内容は豊富ではあるが現場の職員には問題点、重要性などがいまひとつつかみにくい内容となっている。	○	介護計画は重要性を考慮して3項目ほどに絞って計画を立てること、また職員全員がケアマネの視点で意見を交わし、支援計画をまとめ上げることが求められる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは原則として3ヶ月ごとに必要であれば随時、収集した情報、ケース検討会議の資料をもとに継続、中止、変更の見直しを行っている。しかし、介護計画の見直しを行うにあたって、実施状況及び結果などの記録が少なく、モニタリングが弱い。	○	毎日の介護記録にケアプランの項目番号を付し、介護計画にそって実施した内容を記入することが求められる。またその実施状況と結果及び考察を記録し、ケース会議、モニタリングの参考資料とすることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
○					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスでの利用者との交流、こころのクリニック(心療内科)での受診などが実施されている。地域資源を活用して、利用者が受けるリロケーション(住み替え)ダメージを回避するためにもふれあいサロンを活用して地域の人との交流を図っている。その人がその人らしく、いつまでも安心して、暮らせる環境づくりに努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体の北山病院から精神科医が併設のこころのクリニックへ月2回精神科医が来訪し、往診してもらっている。通院は原則として家族が同行するが、都合がつかないときは職員が付添っている。ターミナル期の入居者もいるので、訪看を契約している方と看護師とは連携を強めている。隣接のデイサービスの看護師がホームの近辺に住んでいるので、緊急時には応援できる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の要介護の重度化及び入居者の1人がターミナルを迎えられたことに伴い、運営推進会議でも盛んに討論がなされている。職員間でもターミナルに対する問題意識が向上し、日々活発に話し合い、研修にも参加して、ターミナルに対するまとめも出来上がりつつある。ホーム初のターミナルケアで不安を感じるスタッフもいるが、職員が一致協力して取り組みの姿勢が感じられる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護規定を遵守し、各情報、記録は事務室で管理、保管されている。日々のケアにおいても、トイレ誘導、入浴介助に際しても本人、周囲の方々に失礼ないように配慮している。接遇マナー研修も受講して、基本的なことを見直すとともに、質・内容ともより上を目指すことで職員のレベル向上に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活リズム、スタイルに合わせてケアが行われている。このホームにおける共同生活では、利用者同士がお互いにつながりを意識し、自然に協力し合えるような側面的支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは職員が知恵を出して考えている。地元で採れる野菜については地産地消にこだわっている。カロリー配分にも気を配り、調理された料理は嚥下しやすい。野菜の皮むき、豆の鞘取りなど、調理の一部の手伝いには今でも利用者に手伝ってもらい、少しでもホームに貢献できるように支援しているが、メニューの決定に利用者自身が取り組んではいない。	○	テレビ、新聞や広告チラシなどの写真などを使用し、旬の食材の話題を提供して、利用者が自ら選択できるよう支援するなど、主体的に食事メニューを選択することができるよう、工夫することが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者個々の状態や必要性により、ある程度の入浴回数の調整は必要であるが、入浴介助は午後に行い、基本的に回数は利用者自身の生活パターンに合わせている。入浴できるように誘導する一方、入浴に拒否が見られる方などについては、スタッフのみならず家族とも対応の検討を行うなど、利用者本位の姿勢が貫かれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームでは、入居する前の生活習慣を大切に、各自の経験、職歴、生活の継続性にも重点を置いた支援を行っている。ホーム内においても、利用者への声かけやスタッフ間のやり取りは自然にスムーズにされており、ゆったりとした時間の流れが感じられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺を中心に近くの山のふもとまで散歩に出かけたり、京北町内のスーパーへの買い物などに同行していただくなどして、地域の方々とのつながりが続けられるようにしている。そのほかにも花見、紅葉見物など、外出を通じて地域の自然の移ろいを感じられる工夫が見られる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関や窓、通用口も施錠はされていない。利用者は自由に入出入りすることができる。不意に外出すれば、職員がさりげなく連れそう。万一利用者がホームからひとりで出ることがあると、地域住民からの通報してくれるなど、地域住民の協力が得られる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器、通報機、感知器、防火管理者等は設置され、消防計画を作成している。避難訓練は夜間想定も含めて、年2回実施され、消防署職員からも手ほどきを受けている。備蓄の準備、地域との防災協定書の策定をすること、消火スプリンクラーの早期の設置を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は入居者ごとに把握されていて記録されている。同法人内の管理栄養士にもチェックしてもらい、コメントをいただいている。利用者の要介護重度化にも対応して、ごはん、おかゆに加え、おかずなどをその利用者の摂食状況に合うように、刻み、極小刻み、ミキサー食などに対応した食事も準備し、必要であれば個別に食事介助を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は木目の床材を張って床暖が部分的に施されている。リビング兼食堂はゆったりとして広く、ソファが置かれていて、利用者が日々語り、歌を歌い憩う、団欒の場となっていてなごやかな雰囲気が漂っている。職員が利用者とも協力しながら掃除を行っているが、利用者の至らない部分についても他の職員が補い、共有スペースの清潔さ、快適性の維持についても特段の配慮がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の北側と東側に居室があり、利用者の動線を考えて間取りされている。表札は、地元産の銘木で作られて居室は畳敷き、フローリングの2タイプがある。居室内には利用者が長い間慣れ親しんだ家具、写真、調度品を持ち込み思い思いの場所に置いたり、飾ったりして今までの生活が維持できるように援助している。		